

宇部市人権交流ひろば

「安心できる子どもの居場所」 について

映画

「さとにきたらええやん」 を観ていっしょに考えて みませんか？

参加費無料

事前申込不要

と き 平成28年12月4日（日）

1回目 10:00から12:00

2回目 13:30から15:30

2回目上映後「映画の感想を語り合う集い」（希望者）

ところ 宇部市男女共同参画センター・フォーユー
3階 軽運動室

実施団体 CAPうべ

* CAPうべは、NPO法人CAPセンター・JAPANに所属し、子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会をめざして活動する 団体です。

主 催 宇部市 宇部人権啓発活動地域ネットワーク協議会

映画のあらすじなどは裏面を

映画『さとにきたらええやん』あらすじ

大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり活動続ける「こどもの里」。

“さと”と呼ばれるこの場所では0歳からおおむね20歳までの子どもを、障がいの有無や国籍の区別なく無料で受け入れています。地域の児童館として学校帰りに遊びに来る子や一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子だけでなく、子どもの親たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、貴重な地域の集い場として在り続けてきました。

本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも力強く成長していく子どもたちと、彼らを支える職員たちに密着。子どもたちの心の揺れ動きを見つめながら、子どもも大人も抱えている「しんどさ」と格闘する人々の切実な姿を描き出しました。

(映画「さとにきたらええやん」公式ホームページより抜粋)

CAP(キャップ:こどもへの暴力防止)では「安心とは何にも怖いことがないときの気持ち。そのままを受け入れられているときの気持ち。子どもにとって特別に大切な人権です」と子どもたちに伝えています。

子どもたちの「安心」を守っていくために おとなの私たちは何ができるかをみなさんと一緒に考えたいと思い、映画『さとにきたらええやん』の上映会を企画しました。

この映画は、『子どもの貧困』『子ども虐待』『無戸籍』など 子どもの安心を奪うものの存在に数十年も前から気づき、何ができるだろうかと模索し、とことん諦めず 子どもとその親に寄り添いながら 日常生活を支えてきた「こどもの里」の取り組みを描いています。

この映画で描かれているのは、かわいそうな子どもたちではありません。すばらしい力を持っている子どもたちです。厳しい状況の中でも子どもたちは決して無力ではありません。だれかの支援があれば力を発揮できることがわかります。

子どもの支援は一時しのぎではなく、継続性が必要です。

支援し続ける制度や人をつくっていく地域全体での取り組みが必要です。

この映画には「私たちにも何かできるかもしれない」と思わせてくれるヒントがたくさんあります。そして、勇気づけられます。

子どもの人権が尊重される社会とは、子どもだけでなくその家族、地域 すべての人の人権が尊重される社会だと思えます。

行政・地域社会が一体となり、子ども、おとな だれもが「安心できる居場所」づくりについて考える機会にしたいと思えます。

映画『さとにきたらええやん』の上映が、一人ひとりの力を信じ、つながることのできる支援を考えるきっかけの一助になることを願っています。

(CAPうべ)



問い合わせ
宇部市人権・男女共同参画推進課
tel:0836-34-8307
メールアドレス:jinken@city.ube.yamaguchi.jp